

「読むだけでわかる数学再入門 微分・積分編」 正誤表 印刷ミス

頁	行	
13	11	$y=f(x)$ を「前面」に変更
29	下から1	「...できます。」⇒「...できます. $m=n+1$ とおきますと,」
58	下から8	「る $r$ は,」⇒「を用い $\alpha=r(\sigma_y/\sigma_x)$ と表されます. . $r$ は統計学で・・・」
63	1	1.7.微分に関する補足←捕捉 ⇒ 目次も修正, 表・表紙の目次
91	例2.3.3-1	$O(0,0) \Rightarrow O(0,0)$
149	19	「同様に, 面2, 4, 6は」⇒「同様に, 流束ベクトル が, 面2, 4, 6の交点」
	13~20	(文章全体の入れ替え)
150	下から7	$ s  \Rightarrow \ s\ $
152	下から7	$ds$ への与 ⇒ $ds$ への寄与
	下から3	式番(3.3.3-3)および(3.3.3-4)を少々上に移動
	下から3	「ここで, 分割が? 個あれば, の」を1文字下げ, 「の」を削除
	下から1	「あります。」⇒「ありまして,」
166	下から12	式3.4.4-13 $\begin{vmatrix} f & g & h \\ \nabla_x & \nabla_y & \nabla_z \\ f & g & h \end{vmatrix} = \xi \cdot (\nabla \cdot \xi) = 0 \Rightarrow = \xi \cdot (\nabla \times \xi) = 0$ のように変更
168	8	「式3.4.4-19の第3項Uを求めます。」⇒「Uを求めます。」
	13	「式3.4.4-19の第4項Vを求めます。」⇒「Vを求めます。」
181	下から3~2	式変更 $\frac{\partial^2 \varphi}{\partial x^2} = \frac{\partial^2 (\sin(x-vt) + \cos(x+vt))}{\partial x^2} = -\sin(x-vt) - \cos(x+vt) = -\varphi(x,t)$ $(1/v^2) \left( \frac{\partial^2 \varphi}{\partial t^2} \right) = (1/v^2) \left( -(-v)^2 \sin(x-vt) - v^2 \cos(x+vt) \right) = -\varphi(x,t)$
190	18	$E = E_0 \exp\{i(kx - \omega t)\}$ ( $E_0 =  E_0 $ ) か $E = E_0 \exp\{i(kx - \omega t)\}$ ( $E_0 = \ E_0\ $ )
191	15	式4.3.2-8 $V = \omega/\alpha = (2\pi f)/(2\pi/\lambda) = f\lambda = \lambda/T$ に変更
195	下から2~1	$E \Rightarrow \ E\ , H \Rightarrow \ H\ $
196	1~5	$E \Rightarrow \ E\ , H \Rightarrow \ H\ $
	13	$E \Rightarrow \ E\ , H \Rightarrow \ H\ $
200	図4.3.6-221	図4.3.6-2
	下から14	図4.3.6-3を図4.3.6-2に変更 太文字
	図4.3.6-3	図4.3.6-3を図4.3.6-2に変更 太文字
	下から5	図4.3.6-4を図4.3.6-3に変更, 太文字
	図4.3.6-4	図4.3.6-4を図4.3.6-3に変更, 太文字
210	図4.4.4-1	図4.4.4-1 ⇒ 図4.4.4-2
	下から12	図4.4.4-1 ⇒ 図4.4.4-2
220	9	「図4.5.4-1 曲率半径」の追加
222	下から9	図4.2.7-1 ⇒ 図4.6.1-1
229	8~10	①線形正 ⇒ 線形性 ③間伸縮性⇒③時間伸縮性 ④間推移性⇒④時間推移性 ⑤波数推移性⇒⑤周波数推移性 ⑥間微分⇒⑥時間微分 ⑦波数微分⇒⑦周波数微分 ⑧役性⇒⑧共役性
232	図4.6.5-3	図が欠けている
全て	演習問題	最初の行の数字を消す. 印刷時は消えるはず.
	図番号	図番号を太文字にする
	図キャプション	図の下のキャプションの図番号(例えば, 図3.1.2-2)は太文字に統一する.
116	下から10	「2Kの2を取る」はキャンセル「2Kのまま」
149	13~20	(文章全体の入れ替え)

「前面」とはワードの機能

間違いではないが位置ずれ		
5	10	$\lim x^n$ の式が下の行にかぶっているので少々上に移動
	下から2	むずかしさ ⇒ 難しさ
6	下から5	$ a_n  < M$ および $M$ の位置がずれている
15	2	文字ずれ「である場合」を右ずらし式と重ならないようにする
16	下から1	ン ⇒ ン?!
18	11	「(2)の公式で」の後の式が小さい, 大きくすると14行まで文字がずれる.
22	3	絵が□に被っている
23	下から3	であったら ⇒ 出合ったら
24	下から7	式を少々上にずらして下の行に重ならないようにする
27	11	$\log_a x^b = b \log_a x$ の式の位置を少々上にする
31	6	式番号を少々右(後ろ)にする
33	4~1	行間を14ポイントに整理
41	下から4, 3	$\delta 1, \delta 2$ を「前面」にして位置ぞろえ.
42	9	式の位置を少々下げる
	12	良いことが分かる. ⇒ 良いことが分かる(図4.2.2-2 参照).
45	図1.4.5-1	図1.4.5-1のキャプションの文字の大きさ >> 8ポイント, 図番号を太文字
55	下から2	airおよび $a_j$ の位置を少々左に寄せ空白部分を消去する
77	2	式2.2.3-17の位置を少々下げて中央にする
81	2	定義8の枠を少々うえにする
83	下から4~3	「区分……と言えます」の文字が小さい
81	2	定義8の枠を少々うえに移動
191	12	$2\pi f \Rightarrow 2\pi f$
98	16	で表されるがす. ⇒ 表されます. (この修正で文字がずれるので注意)
99	13	グリーン…の行の先頭を1文字下げ, $G(x x_0)$ の位置を修正する
102	8	$\varepsilon$ を少々小さくする
147	4	$\angle x$ が $\angle y, \angle z$ に比べて大きいので同じ大きさにする
	図3.3.1.-1	図番号を太文字
150	下から3	「(式2.4.3-6で, すでに紹介済み)」に変更
151	下から12	$e_x, e_y, e_z$ の位置を調整
152	図3.3.3-2	図のキャプションの調整
153	4	一行追加して $\oint_{\Gamma} \mathbf{p} \cdot d\mathbf{s} = \sum_{i=1}^n \oint_{\Gamma_i} \mathbf{p} \cdot d\mathbf{s}$ を, 見えるようにする.
153~154	1	「このとき,」を前のページの「しましょう」が154ページが移動したあとに置く. 行がずれることになる.
	1	$(\nabla \times \mathbf{a})_i, \nabla \times \mathbf{a}$ を少々小さく
157	下から8~5	式の文字の大きさを小さくする.
	下から6	「循環式は,」だけとする.
169	1	$p, q$ に変更
	下から4	$p, q$ を小さく.
176	下から10	式の位置を少々上に移動
177	図4.2.2-1	図番号を太文字
178	多数	式番号が枠線に重なっている
180	図4.2.2-2	図番号を太文字
182	6	式4.2.4-1の位置を少々上
192	10	$2\pi f \Rightarrow 2\pi f$
	表4.3.2-1	表4.3.2-1 各種パラメータ (表番号を太文字, キャプション追加)
	下から7	表4.3.2-1 を太文字
195	下から4	「同じ値でした,」 ⇒ 「同じ値です(図4.3.3-1参照).」
196	図4.3.4-1	キャプションの修正
200	図4.3.6-1	図4.3.6-1を太文字
207	図4.4.4-1	$C_n$ を削除, 図番(図4.4.4-1)を太文字
	下から9	「されています. 広域」⇒「されています.」(図4.4.4-1に示すように, 広域)したがって, 207の下から9~208の6までm所がずれる
217	—	パラボラ・アンテナの図を少々上に移動
218	15	$S(x) = \pi x^2, x^2 + y^2 = r^2$ を少々小さく
221	下から20	「(filtering)といいます,」 ⇒ 「(filtering)といいます(図4.6.1-1参照).」
222	下から16	「山あるいは谷と谷はやはり波の周期」⇒「山あるいは谷と谷は, 共に波の周期」
223	下から10	$\sigma^2 = 1$ の大きさを小さく
224	10	「線方向です,」 ⇒ 「線方向です(図4.6.2-1参照)」
231	下から1	「します,」 ⇒ 「します.(図4.6.5-4 参考)」
237	下から10と7	式番号を左に移動
238	下から10~6	英文字部分の先頭をそろえる